

富士紀行（7） 富士登山者

本日、本当に20余年ぶりに富士浅間神社（小山町須走126番地）を訪れた。以前にも増して、境内の森は鬱蒼として、神が宿っているかの如き感じで、背筋がピンとして来た。境内を歩いていると「大願成就富士登山899回」石碑が建てられているのを発見した。一般には富士登山は33回を持って大願が成就すると言われているが、それにしても、899回というのは驚きである。この回数を持って最高登山者であると断定は出来ないが・・・。どなたか、最高登山回数者のことを御教示願えれば幸いである。

● 富士浅間神社について

その由緒は、桓武天皇の延暦21年（802）にさかのぼる。当時、富士山東脚が噴火、雷鳴地震が終日止まず人々恐れ戦く。依って国司郡司に命じてこの処で鎮火の祭りを執行すると翌年4月上旬噴火が治まった。その噴火祭の跡地に鎮火の御礼のために社殿を造営したと伝えられる。

（創建807年大同2年）主祭神は木花咲耶姫命

● 富士登山者（出典及び参考：遠藤秀男著「富士山よもやま話」&「小山町史」から）

① 伝説の富士登山者・・・聖徳太子

推古天皇6年、聖徳太子は求めた甲斐馬が調教が終わったので、試乗した。太子が鞭を当て疾駆するや馬も太子も調使諸共に空中に浮き、東天目指して飛び去った。3日目に太子は無事に帰還した。富士山頂にまで行って来たと言った太子に一同驚いて口も利けぬ有様であったという。

② 富士開山者・・・役の行者（小角）

伊豆大島に配流になった役行者は赦されて後、勅命により富士山麓にはびこる悪神退治を命ぜられた。任を果たした行者は山麓を仏化勧請の地にしていった。富士山頂への登山については2説あるそうである。1つは小御岳から屏風岩を通して頂上に至った。もう一説は霧が深くて登り切れなかったため、須走口から小富士に至ってそこを頂上に見立てたというものである。

彼が登山したのは巻間須走口と言われている。小角に関係ある遺跡伝承があること、伊豆大島と山頂に至る道筋が須走にあたることから、そう言われるのであろう。御殿場に椿が多いのも役行者と関係がある？

③ 外国人初の登山者・・・英国公使オールコック

万延元年(1860)英国公使オールコックは再三の幕府の中止懇請をやっと説き伏せて、7月26日、今は滅亡した村山口からの登山に成功した。幕府としては、生麦事件の後でもあり、富士山は日本人の魂であり、シンボルであるので、外国人の登山を認めたくはなかったけれども遂に押し切られたのである。

④ 須走浅間神社で修行した弘法大師の登山 大同年間（806年～）

延暦の大噴火の怒りを静める目的であったろうか弘法大師は、須走浅間において修行したと伝えられている。富士浅間神社の社宝として、「弘法大師寄贈の紺紙金泥の経巻」及び「弘法大師自作の鉦造の経机」2点がある。

⑤ 女人禁制の山

富士登山は神仏に会うための登頂であるので、道者は必ず麓の霊水で身を清めてから登っている。登山には殊に不浄者を嫌い、一般の者にも身を清めて登山することが要求された。女性は不浄な者（今時この様なことを言ったら家内に三行半を突きつけられそうだが・・・）と考えていたので、各登山口ではほぼ一合か二合目のあたりに制札が立てられ、そこを「女人禪定の追立」などと称した。ただし、庚申即ち「カノエサル」の年には、女性にも限定的ではあるが、登山が許されたようである。神社仏閣地へ女人禁制も明治5年の太政官布告「神社仏閣地に女人結界之場所有之候処、自今被廢止、登山參詣可為勝手候事」によって幕を閉じた。

⑥ 積雪期の登山・・・ウォルター・ウエストン

イギリスの宣教師で、日本近代登山の父と称せられるw・ウエストンが明治25年須走口から積雪期の富士山に登頂した。

⑦ 昭和天皇の登山

大正12年7月27日、当時皇太子・摂政の宮であった昭和天皇が須走登山道から富士山に登頂された。それを祈念して「皇太子殿下登山記念」の石碑が須走登山道入り口に建立されている。

その横に皇太子浩宮様の登山を記念しての「梓」の木が植えられている。

（登山されたのは昭和63年8月1日、昭和天皇の御病氣快癒を祈願されたのであろうか）

今上天皇については小生は確認していない。乞う御教示！